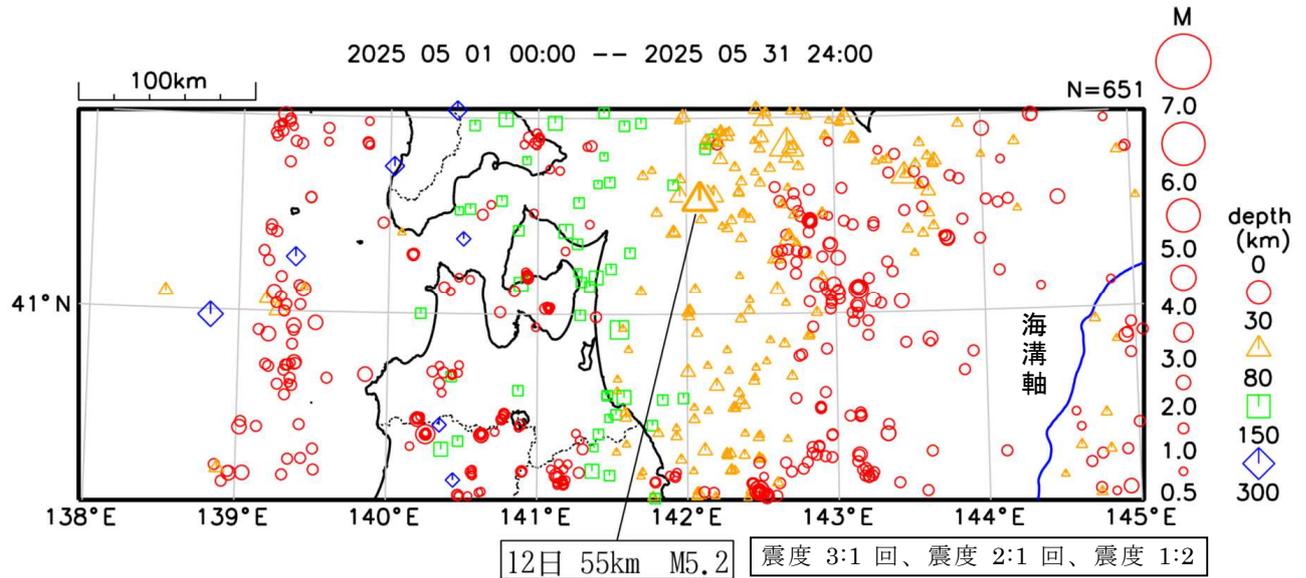


青森県月間地震概況

2025年5月

青森地方気象台

震央分布図



震央：震源（地下の岩盤破壊が最初に始まった点）の真上に向かって地表に投影した点
M（マグニチュード）：地震の規模

吹き出しをつけた地震は概況で取り上げたもの。

【5月の地震概況】

今期間、青森県内で震度1以上を観測した地震は16回（4月：13回）であった。このうち、青森県内で震度3以上を観測した地震は2回（4月：2回）であった。

12日23時54分に青森県東方沖の深さ55kmでM5.2の地震が発生し、北海道と青森県で震度3を観測したほか、北海道、青森県、岩手県、宮城県で震度2～1を観測した。県内では、階上町と東通村で震度3を観測したほか、県内全域で震度2～1を観測した。この地震は太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。この地震の震源付近では、今期間、震度1以上を観測する地震が4回（震度3：1回、震度2：1回、震度1：2回）発生した。なお、過去には2012年5月24日にM6.1の地震（青森県で震度5強、計19か所で建物被害：被害は消防庁災害情報による）が発生するなど、M5を超える地震が度々発生している。

31日17時37分に釧路沖の深さ20km（図の範囲外）でM6.0の地震が発生した。また同日17時39分にほぼ同じ震央の深さ12kmでM5.0の地震が発生した。これらの地震はほぼ同時刻に発生したため震度の分離はできないが、青森県で震度3を観測するなど、北海道、東北地方、関東地方で震度4～1を観測した。県内では、八戸市で震度3を観測したほか、県内全域で震度2～1を観測した（詳細は札幌管区気象台資料を参照してください）。

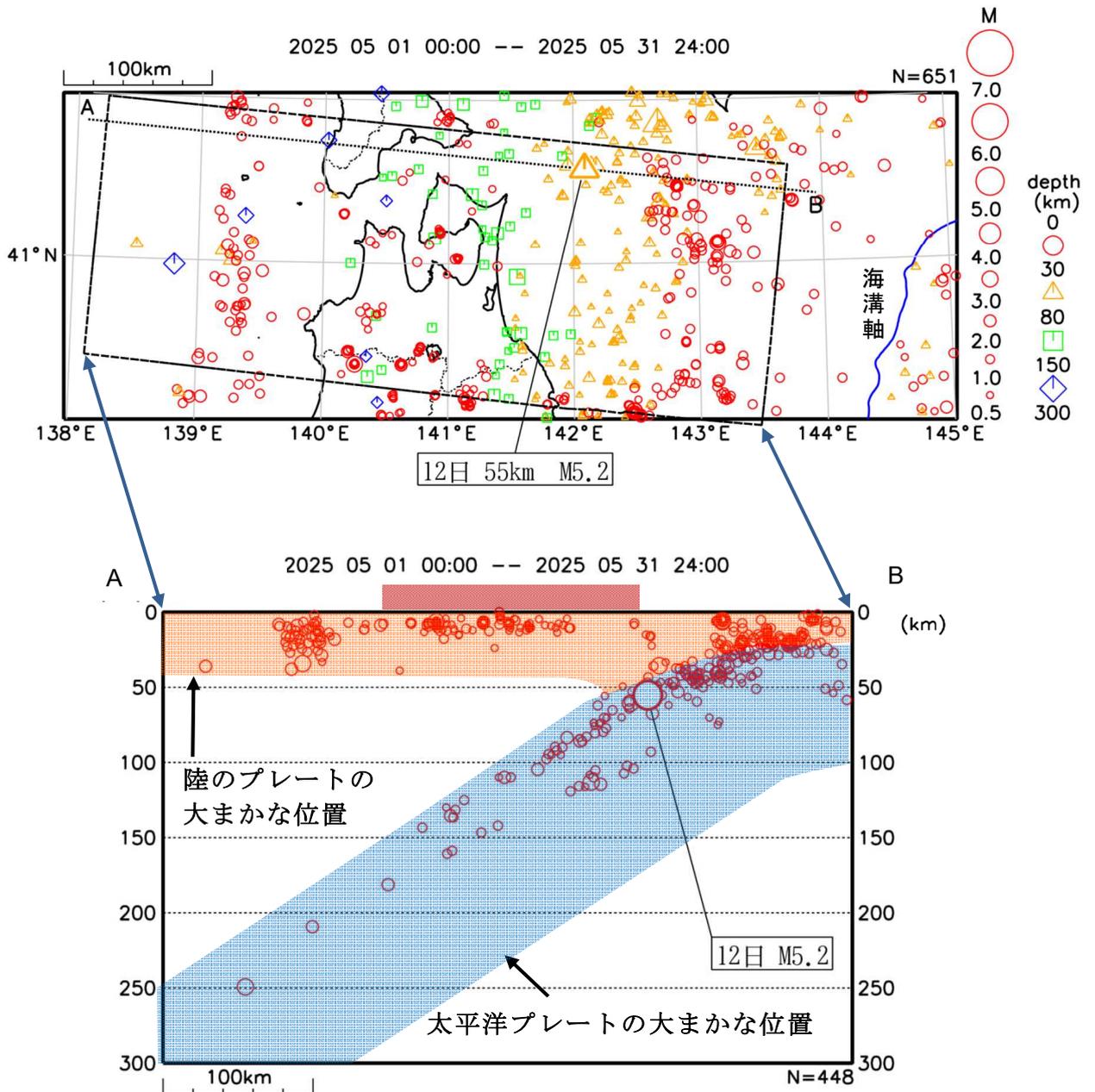
札幌管区気象台地震解説資料：

<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/jishin/pdf/kaisetsu/202506021530.pdf>

各地の震度の詳細については「青森県で震度1以上を観測した地震の表」を参照。

地震の震源要素及び震度データは、再調査により変更することがある。

断面図（震央分布図内の破線領域内のA点からB点の断面における震源の深さ）



※太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。

※ は陸地の大まかな位置を示している。

※陸地から離れた海域（概ね陸地から200km以遠）ほど、震源の深さに関する精度は良くない。なお、沖合の地震の震源は、実際はより浅いところのものが多いと考えられる。

8月26日は「火山防災の日」です

2023年、活動火山対策特別措置法が改正され、国民の間に広く活動火山対策についての関心と理解を深めるため、昨年8月26日を「火山防災の日」とすることが定められました。国及び地方公共団体は、「火山防災の日」には防災訓練等その趣旨にふさわしい行事が実施されるよう努めるものとされています。

噴火災害から身を守るためには、気象庁が発表する火山防災情報に基づき、噴火警戒レベルに応じた行動をとることが重要です。青森県内にも、恐山、岩木山、八甲田山、十和田の活火山があり、恐山を除く3つは常時観測火山です。これらの火山に関する情報は、気象庁ホームページやテレビ、ラジオ、スマートフォン、防災行政無線などで確認できます。また、火山防災マップで事前に情報を収集し、避難場所や想定される火山現象を確認しておくことも大切です。

8月26日「火山防災の日」をきっかけに、火山を知り、噴火に備えていただければ幸いです。

●なぜ8月26日なのか

8月26日は、日本で最初の火山観測所が明治44年(1911年)に群馬県・長野県の県境にある浅間山に設置され、観測が始まった日です。浅間山は、明治42年(1909年)から噴火が活発化しており、住民の不安が高まっていました。このため、長野県知事の依頼と震災予防調査会、長野測候所の協力により、近代的な火山観測を始めました。



日本で最初の火山観測所

●「火山防災の日」についてのホームページ

気象庁では、法律の施行日にあわせて、気象庁ホームページに特設サイトを開設しました。火山のことをよく知らない方でも、火山そのものや火山防災について興味を抱いていただけるように、気象庁のマスコットキャラクター「はれるん」と、鹿児島生まれの火山防災マスコットキャラクター「ぼるけん」に登場してもらい、やりとりを通して、火山を知って詳しくなれる構成としています。火山の魅力や恩恵とともに、火山防災について正しく理解していただくために、ご活用ください。



8月26日は火山防災の日



「火山防災の日」特設サイト トップページ